

府中市健康地域づくり審議会
第2回次世代創造分科会 報告書

- 1 日 時：平成25年2月22日（金）13：30～15：00
- 2 場 所：府中市役所3階第3会議室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）
吉 原 純（分科会委員） 平 地 緑（分科会委員）
藤 井 敬 子（分科会委員）

4 概 要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議 事

前回のまとめと今回の議論のポイント・目標

前回「子どもの数を増やす」ことについて審議した意見を集約し、子どもを増やすために必要なことは「環境」、育てやすい環境・産みやすい環境・住みやすい環境・支援しやすい環境ではないかと整理した。今回は、府中市の現状や課題について、この4つの環境に基づく、自立（雇用）・婚姻（婚活）・出産・子育ての分野で、子どもを増やすための環境を整えるためにどんな課題があるのか、どういう面で困っているのかを論議し、何を作り上げていくのか的を絞って論議する。

補足説明（自立（雇用）・子育ての支援に関して早急な課題）

・子どもの発達支援について

発達障害について、平成25年4月から専用相談窓口を設け、相談事業の充実と継続的な支援への対応をおこなっていく。

・母子自立支援について

児童扶養手当は、増加傾向にある。離婚後の養育など、生活に直面した相談が多い。雇用対策事業、母子福祉対策事業の就労支援について、充実に向けた支援の必要性がある。

① 質疑・意見交換

【主な質疑、意見】

- 子育て家族の親の子育て力とか家庭力を高めながら、親の支援をしていくべきである。親育ての支援と子ども育ての支援両方が必要。

受け身ではなく、父も母も自主的に興味を持って活動できる支援を増やすことも必要。

○発達障害で悩んでいる方、離婚家庭の方、不妊治療をしている方など、同じ悩みを持っている人と一緒に話をすることで、気が楽になるし情報交換ができる。そのような場所を増やすこと出来ればよいのでは。

○敷居の低い相談窓口で、総合的な相談できる人がいればいいと思う。子育て情報や、仕事を探している母親が子どもを預ける場所の情報などすぐに分かるような場所があれば良い。

○子育てカフェをお母さんたちが運営してみたらいいのでは。

○昔は、地域の中で子どもを見てくれ、自分の子を客観的に知るという機会があった。地域で子育てができるような機会を増やすことをして見ては。

○地域の力をかりて、おじいちゃんおばあちゃんが、係わるとかの活動が出来たらいいのではと思う。楽しかったとか、続けたいという思いがあれば活動もできるのでは。

○母親が外出するから、隣のおばあさんがみてくださるなど、身近な地域ですぐに支援できることがあったらいいと思う。地域のお年寄りと小学校の子と一緒に畑で何か作ることができるとか、どこかで人がつながることができればいいと思う。

○府中は、児童館などお年寄りとの交流ができているところがあるので、いいところは増やしていけばいいのでは。また、働いている母親も参加できるようになればと思う。

○子どもの数を増やすことは、人と出会って良かったと思える、自分に自信を持つ、一人ひとりが魅力を持つことが大事ではないか。
若い人たちのできるいろんな活動に方針を立てて、自分を育てようということもあっていいのでは。心が元気になるよう若い人を育てていくと、その人が年を重ねるといいお年寄りになる。

○若い人の入るイベントとかの活動をしているが、ちょっとずつ新しいメンバーが増えている。活動が楽しいということが重要なポイント。

- 親になる人にとっては、子どもは、生まれてくることだけでうれしい。先のこととかあまり考えていないと思う。
- 子どもの医療補助は、経済的な負担が大きい。小学校に入ると医療費がかかるという気持ちになる。
- 不妊治療に、県の補助金があることを知らない人もいる。そのようなサポートがあるとか、専門クリニックの紹介のパンフレットなど、情報を知ることが出来て相談もできる場所があればいいと思う。
- 離婚しても、就職する場がない人が多い。離婚をした人に対しての、生活費保障という制度が既にあるが、補助がもらえない人はどうしたらいいのかと思う。借りられて、返せるのであれば枠を広げて、いろんな人に補助が出来ればいいと思う。
- 男性が子育てに係わってもらうことも必要だと思う。父親がかかわっている家庭は、母親も落ち着いてくる。
- 母親が子どもに対して、落ち着いて接することが出来ると、子どもも落ち着いてよいサイクルで回る。府中市全体の子育ても、落ち着くことに繋がると思う。

(6) 分科会副会長あいさつ